

# 風土記の丘の花だより<sup>152</sup>

今、そしてこれから見られる植物(2022年9月17日)

台風が次から次へと発生していますが、被害がでないことを祈りたいですね。9月14日にヒガンバナが咲きました。これをご覧になるころには風土記はもちろん、お宅の周りでもきっとたくさんの花が咲いていることでしょう。



イタドリの花が咲いています。でも、小さな花がたくさん集まっているので、何か泡だっているようですね。(そう見えませんか?) これは船屋の南の斜面で撮りましたが、どこにでも生えている大型の草です。痛みを取ることから「痛取り」という名前になりました。春に出る新芽は「すかんぼ」や「ごんぱち」などと呼ばれる山菜です。



万葉植物園の大きなネムノキの下でシラハギが咲いています。名前のおり真っ白なハギです。ハギの見分け方は難しいですが、このハギは間違えようがありませんね。資料によっては「シロバナハギ」と書かれていることもあります。諸説ありますが、ミヤギノハギの変種だというのが主流になっているようです。その近くに咲いているのは、花がくちやくちやくとしたマルバハギです。



道端などでよく目立つピンク色の花はサフランモドキです。江戸時代に日本に入って来た頃はサフランと勘違いされていて、ずっと後に「ちがう！」と分かってこんな名前になったと言われています。でもサフランはアヤメ科、こっちはヒガンバナ科、似ても似つかぬまったく違う植物です。前号で紹介したタマスダレの兄弟みたいな植物です。



ヌルデも地味な花を咲かせています。最初のイタドリの次に載せると「どこがちがうん?!」と言われそうなので、離して載せました。イタドリは草ですが、ヌルデは木です。葉は羽状態複葉といって、ハゼノキやサンショウみたいな付き方です。イタドリもヌルデも花を見るのには虫眼鏡がいりますね。 松下